

イタリア未来派の諸宣言の日本語訳

太田岳人

I 凡例

- ・ 本稿は、イタリアの20世紀前半における代表的な前衛芸術運動である未来派（Futurismo）に参加した、芸術家たちが残した各種の宣言文を中心とするテキストの中から、同時代から現在に至るまでの間に日本語に翻訳されたものを、管見の限りでリストアップしたものである。
- ・ 収録した宣言の翻訳は、個々のテキストに記された日付を優先して、それが無い場合は公開された時期等に従って、年代順に並べた。各宣言には整理用の番号と、本稿の著者による日本語の宣言名を付した。
- ・ 個々の訳者による日本語の宣言名もそのまま掲載するとともに、一つの宣言に複数の日本語訳がなされている場合は、それらも年代別に整理した。
- ・ 翻訳ごとに出典の情報を記しているが、単独の論文、紀要、研究書、資料集、展覧会カタログ等に多数の翻訳が訳出されている場合は、指示の煩雑さを避けるため、参考文献に記した略称によった。
- ・ 特に未来派受容の初期段階においては、個々の宣言の内容を紹介者がうまく要約したものが存在しているが、本論では元テキストに対して比較的忠実に、分量的には全体ないしは大部分を訳出しているものを中心に収録した。
- ・ 戦前期における未来派受容状況についての先行研究としては、特に千葉宣一（1978）と西野喜章（2019）のものが参考になった。両者が紹介している多くのテキストは、ゆまに書房が出版している「海外新興芸術論叢書」シリーズ（海外・刊本 2003／海外・新聞雑誌 2005）、および「コレクション・モダン都市文化」（モダン 2007）で復刻されており、今回の作業の大きな手助けとなった。一方、第二次世界大戦後の宣言の翻訳については、30年前にセゾン美術館ほかで開催された、「未来派 1909-1944」展カタログに付された日本語文献表（セゾン 1992: 363-366）を調査の出発点とした。
- ・ 個々のテキストの原本の確認には、現在ローマ・トリエンナーレ事務局から刊行が続いている「新未来派アーカイヴ」の、「展覧会カタログ」および「綱領的宣言文」の2巻を中心に活用した（NA-CdE 2010／NA-MP 2019）。
- ・ 本論は、未来派運動に参加した芸術家の宣言および理論的テキストについての情報整理を目的とする。そのため、詩・小説・「総合演劇」などの翻訳、あるいは1909年から現在までにいたる、日本の未来派受容において重要な役割を果たした歴史的著作（例えば、ダヴィッド・ブルリュックと木下秀の『未来派とは？ 答へる』（1924年））であっても、言及していない文献がある。

- ・ 1945年以前の文献の表記については、読みやすさを優先して現代かな遣いに直した。
- ・ リストの後に、論者の観点から簡単な解題を付した。

Ⅱ 未来派の宣言・テキストの翻訳リスト

1. フィリッポ・トンマーゾ・マリネッティ「未来派創立宣言」(1909年2月20日『フィガロ』紙発表)

Filippo Tommaso Marinetti, (*Fondazione e*) *Manifesto del futurismo* / (*Fondation*) *Manifeste du futurisme*

- 1) 森鷗外訳「未来主義の宣言十一箇條」¹⁾
(「むく鳥通信」, 『スバル』第5号, 1909年5月/海外・新聞雑誌2005 vol.1: 3-8)
- 2) 木村莊八訳「未来派の宣言第一」²⁾
(木村1914: 555-562/海外・刊本2003 vol.1: 78-88)
- 3) 渡邊吉治訳「未来派宣言書」³⁾
(『帝国文学』1916年6月号, 3-30)
- 4) 訳者不明「未来派の第一言明表」⁴⁾
(現代之美術1921: 38-40/海外・新聞雑誌2005 vol.2: 299-301)
- 5) 中山麿一訳「未来主義第一回宣言書」
(『新潮』1922年5月号, 83-88頁/海外・新聞雑誌2005 vol.3: 97-102)
- 6) 神原泰訳「未来派宣言書」
(神原1924: 58-68/モダン2007: 266-276)
- 7) 北園克衛訳「最初の未来派宣言」⁵⁾
(『VOU』第120号, 1969年9月, 29-31)
- 8) 訳者不明「未来派宣言」⁶⁾
(マッティオーリ1972: 110-112)
- 9) 幅健志訳「未来派宣言」⁷⁾
(表現主義1972: 21-26)
- 10) 宮田克人訳「未来派創立宣言」
(宮田1984: 88-91)
- 11) 松浦寿夫訳「未来派の成立 未来派宣言」⁸⁾
(ユリイカ1985: 44-47)
- 12) 堤康徳訳「未来派創立宣言」
(セゾン1992: 60-65)
- 13) 多木陽介訳「未来派創立宣言」
(多木2021: 240-250)

2. ウンベルト・ボッチョーニ, カルロ・カッラ, ルイーダ・ルッソロ, ジャコモ・バッラ, ジーノ・セヴェリーニ「未来派画家宣言」(1910年2月11日日付)

Umberto Boccioni, Carlo Carrà, Luigi Russolo, Giacomo Balla, Gino Severini, *Manifesto dei pittori futuristi*

- 1) 大石敏雄訳「未来派画家宣言」
(大石 1969: 23-24)
- 2) 宮田克人訳「未来派画家宣言」
(宮田 1984: 92-93)
- 3) 片桐頼継訳「未来派画家宣言」
(セゾン 1992: 106-108)
- 4) 多木陽介訳「未来派画家宣言」
(多木 2021: 251-255)

3. ボッチョーニ, カッラ, ルッソロ, バッラ, セヴェリーニ「未来派絵画技術宣言」(1910年4月11日日付)

Boccioni, Carrà, Russolo, Balla, Severini, *La pittura futurista. Manifesto tecnico*

- 1) 大石敏雄訳「未来派絵画——技術宣言」
(大石 1969: 24-27)
- 2) 北園克衛訳「未来派絵画：技術上の宣言」
(『VOU』第121号, 1969年11月, 29-33)
- 3) 訳者不明「未来派絵画技法宣言」
(マッティオーリ 1972: 112-114)
- 4) 宮田克人訳「未来派絵画技術宣言」
(宮田 1984: 94-96)
- 5) 片桐頼継訳「未来派絵画技術宣言」
(セゾン 1992: 114-117)
- 6) 角田かるあ訳「未来主義絵画技術宣言」
(立命館 2021: 33-36)
- 7) 多木陽介訳「未来派絵画技法宣言」
(多木 2021: 256-261)

4. ウンベルト・ボッチョーニ, カルロ・カッラ, ルイージ・ルッソロ, ジャコモ・バッラ, ジーノ・セヴェリーニ「未来派画家宣言」(1910年4月11日日付)

Boccioni, Carrà, Russolo, Balla, Severini, *Manifeste des peintres futuristes*

- 1) 訳者不明「某画伯談 未来派の絵画」
(『太陽』第18巻6号, 1912年5月／海外・新聞雑誌 2005-vol.1: 10-11)
- 2) 訳者不明「伊国未来派の宣言」⁹⁾
(『現代の洋画』第3号, 1912年6月／海外・新聞雑誌 2005-vol.1: 16-17)
- 3) 木村莊八訳「未来派画家の宣言」
(木村 1914: 573-581／海外・刊本 2003-vol.1: 99-107)

- 4) 訳者不明「未来派画家の言明表」
(現代之美術 1921: 50-53／海外・新聞雑誌 2005 vol.2: 311-314)
- 5) 神原泰訳「未来派画家宣言書」
(神原 1925: 248-257／海外・刊本 2003-vol.8: 440-449)

5. マリネッティ他多数「未来派的ヴェネツィア／過去派的ヴェネツィアに抗して」(1910年4月27日日付)
Marinetti (et.al.), *Venezia futurista／Contro Venezia passatista*¹⁰⁾
 - 1) 神原泰訳「過去派のベネチアに対して」
(神原 1925: 258-259／海外・刊本 2003 vol.8: 450-451)

6. バリッラ・プラテッラ「未来派音楽家宣言」(1910年10月11日日付)
Balilla Pratella, *Manifesto dei musicisti futuristi*
 - 1) 多木陽介訳「未来派音楽家宣言」
(多木 2021: 262-270)

7. マリネッティ「未来派劇作家宣言」(1911年1月11日日付)
Marinetti, *Manifesto dei drammaturghi futuristi (La voluttà d'esser fischiati)*
 - 1) 大崎さやの訳「未来派劇作家宣言(野次られる快樂)」¹¹⁾
(西洋演劇 2019: 353-355)

8. ボッチョーニ, カッラ, ルッソロ, バッラ, セヴェリーニ「出展者から公衆へ」(1912年2月日付／ベルネーム＝ジュネ画廊における未来派展カタログほか収録)
Boccioni, Carrà, Russolo, Balla, Severini, *Les exposants au public／The exhibitors to the public*
 - 1) 煙無形(森田亀之助)「フェウチュリズムを紹介す」¹²⁾
(『美術新報』第11巻7号, 1912年5月／海外・新聞雑誌 2005 vol.1: 12-15)
 - 2) 木村莊八訳「公開展覧会に際して」
(木村 1914: 563-572／海外・刊本 2003 vol.1: 89-98)
 - 3) 訳者不明「公開表明者」
(現代之美術 1921: 40-46／海外・新聞雑誌 2005 vol.2: 301-307))
 - 4) 神原泰訳「展覧者より公衆へ」
(神原 1925: 260-271／海外・刊本 2003: 452-463)
 - 5) 北園克衛訳「一般大衆への展示者たち」
(『VOU』第122号, 1970年1月, 29-33)
 - 6) 訳者不明「未来派第三宣言」
(マッティオーリ 1972: 115-118)
 - 7) 宮田克人訳「パリ, ロンドン, ブリュッセル, ミュンヘン, ハンブルク, ウィーンなどの展覧会のカタログの序文」¹³⁾

(宮田 1986: 44-48)

9. ボッチョーニ「未来派彫刻技術宣言」(1912年4月11日日付)

Boccioni, *Manifesto tecnico della scultura futurista*

- 1) 北園克衛訳「未来派彫刻の技術上の宣言」¹⁴⁾
(『VOU』第122号, 1970年1月, 29-34)
- 2) 訳者不明「未来派彫刻技法宣言」
(マッティオーリ 1972: 118-121)
- 3) 宮田克人訳「未来派彫刻技術宣言」
(宮田 1984: 97-101)
- 4) 片桐頼継訳「未来派彫刻技術宣言」
(セゾン 1992: 118-125)
- 5) 後藤新治訳「未来派彫刻技術宣言」
(後藤 1995: 102-110)
- 6) 多木陽介訳「未来派彫刻技法宣言」
(多木 2021: 271-281)

10. マリネッティ「未来派文学技術宣言」(1912年5月11日日付)

Marinetti, *Manifesto tecnico della letteratura futurista*

- 1) 幅健志訳「未来派文学技術宣言」¹⁵⁾
(表現主義 1972: 26-31)
- 2) 池野絢子訳「未来派文学技術宣言」
(『政治の展覧会：世界大戦と前衛芸術』収録, 引込線／放射線パブリケーションズ,
2020年, 20-31)

11. ヴァランティエヌ・ド・サン＝ポワン「未来派情欲宣言」(1913年1月11日日付)

Valentine de Saint-Point, *Manifeste futuriste de la luxure*

- 1) 高村光太郎訳「未来派夫人の楽欲論」
(『我等』第1-3号, 1914年3月／海外・新聞雑誌 2005-vol.1: 157-162)

12. ルッソロ「騒音芸術：未来派宣言」(1913年3月11日日付)

Russolo, *L'arte dei rumori. Manifesto futurista*

- 1) 細川周平訳「雑音の芸術・未来派宣言」
(ユリイカ 1986: 112-119)
- 2) 古賀浩訳「雑音芸術未来派宣言」
(セゾン 1992: 202-209)
- 3) 多木陽介訳「騒音芸術」
(多木 2021: 282-293)

13. ボッチョーニ「未来派の彫刻と絵画の造形基礎」(1913年3月15日発行)¹⁶⁾

Boccioni, *Fondamento plastico della scultura pittura futuriste*

- 1) 後藤新治訳「未来派の彫刻と絵画の造形基礎」
(後藤 1995: 111-116)

14. マリネッティ「無線想像力と自由な言語」(1913年5月11日日付)

Marinetti, *L'immaginazione senza fili e le Parole in Libertà*

- 1) 松浦寿夫訳「無線想像力と自由な状態にある語(抄)」
(ユリイカ 1985: 53-57)
- 2) 堤康徳訳「無線想像力と自由な状態のことば未来派宣言」
(セゾン 1992: 268-277)
- 3) 多木陽介訳「シンタクスの破壊 脈絡なき想像力 自由になった言語」¹⁷⁾
(多木 2021: 294-309)

15. ボッチョーニ「ボッチョーニの第1回未来派彫刻展のためのカタログ序文」(1913年6月20日発行)

Boccioni, *Préface du catalogue pour la 1re exposition de sculpture futuriste Boccioni*

- 1) 後藤新治訳「第1回ボッチョーニ未来派彫刻展のカタログ序文」
(後藤 1995: 116-121)

16. カッラ「音, 騒音, 匂いの絵画」(1913年8月11日日付)

Carrà, *La pittura dei suoni, rumori, odori. Manifesto futurista*

- 1) 宮田克人訳「音, 騒音, 匂いの絵画・未来派宣言」
(宮田 1986: 49-52)
- 2) 多木陽介訳「音, 騒音, そして匂いの絵画」
(多木 2021: 310-317)

17. マリネッティ「ヴァラエティ・ショー」(1913年9月29日日付)

Marinetti, *Il teatro di varietà: manifesto futurista*

- 1) 山本有三訳「未来派と劇場」
(『新思潮』1914年7月号／海外・新聞雑誌 2005-vol.1: 193-198)
- 2) 細川周平訳「ヴァラエティ・ショー」
(ユリイカ 1985: 168-175)
- 3) 太田岳人訳「ヴァラエティ・ショー」
(早稲田 2014)
- 4) 大崎さやの訳「ヴァラエティ・シアター」¹⁸⁾
(西洋演劇 2019: 355-356)
- 5) 石田聖子訳「ヴァラエティ・ショー宣言」

(立命館 2021: 53-58)

18. セヴェリーニ「ダイナミズムの造形的アナロジー：未来派宣言」(1913年9-10月執筆)

Severini, *Le analogie plastiche del dinamismo: manifesto futurista*

- 1) 宮田克人訳「ダイナミズムの造形的アナロジー・未来派宣言」

(宮田 1986: 53-56)

19. アルド・パラッツェスキ『反苦悩』(1913年12月-1914年発行)

Aldo Palazzeschi, *Il contro dolore*

- 1) 石田聖子訳「反苦悩」¹⁹⁾

(「笑い創造——ダダ、シュルレアリスム、未来派とパラッツェスキ「反苦悩」——」,
『笑い学研究』第24号, 2017年, 3-16内収録)

20. アントン・ジュリオ・ブラガーリア「フォトダイナミズム」(初版1911年, 第3版1913年)

Anton Giulio Bragaglia, *Fotodinamismo*

- 1) 細川周平訳「フォト・ダイナミズム(抄)」²⁰⁾

(ユリイカ 1985: 120-129)

21. ボッチョーニ『未来派の彫刻と絵画(造形的ダイナミズム)』(1914年2月発行)

Boccioni, *Pittura e scultura futuriste (Dinamismo plastico)*

- 1) 有島生馬訳「印象派对未来派」²¹⁾

(『美術新報』, 第14巻第6号, 1915年4月/海外・新聞雑誌 2005-vol.1: 312-319)

22. バッラ「未来派男性衣装宣言」(1914年5月20日日付)

Balla, *Le vêtements masculin futuriste: manifeste*

- 1) 神部晴子訳「未来派男性衣装宣言」

(神部 2000: 55-56)

23. アントニオ・サンテリア「メッセージ」(1914年5月発表, 「第1回新傾向グループ展」カタログ掲載)

Antonio Sant'Elia, *Messaggio*

- 1) 佐々木宏訳「声明」

(佐々木 1961: 15-16)

- 2) 鶴沢隆訳「メッセージ」

(鶴沢 2007: 62-63)

24. マリネッティ, クリストファー・ネヴィンソン「生氣あるイギリス芸術：未来派宣言」(1914年6月11日日付)

Marinetti, Christopher Nevinson, *Vital English art: futurist manifesto*

- 1) 神原泰訳「活気ある英吉利美術」²²⁾
(神原 1925: 272-277 / 海外・刊本 2003 vol.8: 464-469)

25. サンテリア「未来派建築宣言」(1914年7月11日付)

Sant'Elia, *L'architettura futurista*

- 1) 若月紫欄「未来派企画の新建築」²³⁾
(『文章世界』第10巻5号, 1915年5月 / 海外・新聞雑誌 2005-vol.1: 320-323)
- 2) 佐々木宏訳「未来派建築宣言」
(佐々木 1961: 20)
- 3) 阿部公正訳「未来派建築」
(ウルリヒ・コンラーツ [編]『世界建築宣言文集』収録, 彰国社, 1970年, 35-41)
- 4) 鶴沢隆訳「未来派建築宣言」
(ユリイカ 1985: 204-209)
- 5) 宮田克人訳「未来派建築宣言」
(宮田 1987: 66-69)
- 6) 鶴沢隆訳「未来派建築宣言」
(セゾン 1992: 74-79)
- 7) 鶴沢隆訳「未来派建築宣言」
(サンテリア 2007: 45-47)
- 8) 多木陽介訳「未来派建築宣言」
(多木 2021: 318-324)

26. バッラ「反中立的衣服・未来派宣言」(1914年9月11日日付)

Balla, *Il vestito antineutrale. Manifesto futurista*

- 1) 細川周平訳「反中立的衣服宣言」
(ユリイカ 1985: 220-223)
- 2) 神部晴子訳「未来派反中立衣装」
(神部 2000: 59-60)

27. バッラ, フォルトゥナート・デペロ「宇宙の未来派的再構成」(1915年3月11日日付)

Balla, Fortunato Depero, *Ricostruzione futurista dell'universo*

- 1) 大石敏雄訳「宇宙の未来派的再構成」
(大石 1969: 27-29)
- 2) 宮田克人訳「宇宙の未来派的再構成」
(宮田 1987: 69-71)
- 3) 浦上雅司訳「未来派による宇宙の再構築宣言」
(セゾン 1992: 134-138)

- 4) 巖谷睦月訳「未来派的世界再構築」
(立命館 2021: 114-117)
- 5) 多木陽介訳「全世界の未来派的再建」
(多木 2021: 325-331)

28. エンリコ・プランポリーニ「未来派の舞台美術」(『バルツァ・フトゥリスタ *La balza futurista*』1915年5月12月号発表)

Enrico Prampolini, *Scenografia futurista*

- 1) 古賀浩訳「未来派舞台美術宣言」
(セゾン 1992: 194-199)

29. マリネッティ, エミリオ・セッティメッリ, ブルーノ・コッラ「未来派の総合演劇 (非技術的—力動的—同時的—自律的—非論理的—非現実的)」(1915年9月11日日付)

Marinetti, Emilio Settimelli, Bruno Corra, *Il teatro futurista sintetico (atecnico – dinamico – autonomo – alogico – irreal)*

- 1) 太田岳人訳「未来派の総合演劇 [……]」
(早稲田 2014)
- 2) 大崎さやの訳「未来派の総合演劇 (非技術的—躍動的—同時的—自律的—非論理的—非現実的)」²⁴⁾
(西洋演劇 2019: 356-358)

30. マリネッティ「戦争, 世界の唯一の衛生法」(マリネッティ『世界の唯一の衛生法としての戦争 *Guerra, sola igiene del mondo*』収録, 1915年)

Marinetti, *Guerra, sola igiene del mondo*

- 1) 土肥秀行訳「戦争, 世界の唯一の衛生法」
(立命館 2021: 7-8)

31. マリネッティ「電気戦争 (未来派的展望—仮説)」(マリネッティ『世界の唯一の衛生法としての戦争』収録, 1915年)

Marinetti, *La guerra elettorica (Visione-ipotesi futurista)*

- 1) 細川周平訳「電気戦争——未来派的展望—仮説)」
(ユリイカ 1985: 130-133)

32. マリネッティ「未来派政治運動」(マリネッティ『世界の唯一の衛生法としての戦争』収録, 1915年)

Marinetti, *Movimento politico futurista*

- 1) 細川周平訳「未来派政治運動」
(ユリイカ 1985: 48-52)

33. マリネッティ「我々は月の最後の恋人たる, 象徴主義の巨匠たちを否定する」(マリネッティ『世界の唯一の衛生法としての戦争』, 1915年収録)

Marinetti, *Noi rinneghiamo i nostri maestri simbolisti ultimi amanti della luna*

- 1) 中山甕一訳「僕等は象徴派の諸家を, 月の最後の恋人達を否定する」
(『新潮』1921年5月号, 88-94/海外・新聞雑誌2005 vol.3: 102-105)

34. マリネッティ「速度という新しい宗教—倫理」(『イタリア・フトゥリスタ L'Italia futurista』1916年5月11日号)

Marinetti, *La nuova religione-morale della velocità*

- 1) 細川周平訳「新しい宗教—モラルとしての速度」
(ユリイカ1985: 190-195)

35. マリネッティ, コッラ, セッティメッリ, アルナルド・ジンナ, バッラ, レーモ・キーティ「未来派映画」(1916年9月11日日付)

Marinetti, Corra, Settimelli, Arnaldo Ginna, Balla, Remo Chiti, *La cinematografia futurista*

- 1) 米川良夫訳「未来派映画宣言」
(『季刊フィルム』第10号, 1971年, 94-97)
- 2) 古賀浩訳「未来派映画宣言」
(セゾン1992: 212-216)
- 3) 多木陽介訳「未来派的映画」
(多木2021: 332-340)

36. マリネッティ「未来派ダンス」(1917.7発表)

Marinetti, *La danza futurista*

- 1) 平野萬里訳「未来派舞踏の宣伝」²⁵⁾
(『明星』第2期第1巻1号, 1921年11月/海外・新聞雑誌2005 vol.2: 319-323)
- 2) 横田さやか訳「未来派ダンス宣言」
(立命館2021: 77-82)

37. マリネッティ「未来派政党宣言」(『イタリア・フトゥリスタ』1918年2月11日号)

Marinetti, *Manifesto del partito politico futurista*

- 1) 堤康徳訳「未来派政党宣言」
(セゾン1992: 308-311)

38. プランポリーニ「未来派〈大気構造〉: 建築のための基礎」(『ノイ』第2巻24号, 1918年2月)

Prampolini, *L' "atmosferastruttura" futurista basi per un'architettura*

- 1) 近藤健史訳「未来派〈大気構造〉建築のための基本原理」²⁶⁾

(「エンリコ・プランボリーニと「未来派〈大気構造〉建築のための基本原理」、『日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系』第45号, 2005年, 861-864内収録)

39. バッラ「色彩宣言」(「未来派画家ジャコモ・バッラ」展カタログ, 1918年10月)
Balla, *Manifesto del colore*
1) 浦上雅司訳「色彩宣言」
(セゾン 1992: 142-143)
40. マリネッティ「戦前, 戦中, 戦後の未来派」(1919年3月頃発表)
Marinetti, *Le futurisme avant, pendant et après la guerre*
1) 神原泰訳「戦前, 戦中, 戦後の未来派」
(神原 1925: 278-280/海外・刊本 2003-vol.8: 470-472)
41. フェデーレ・アザーリ「未来派航空劇場」(1919年4月11日日付)
Fedele Azari, *Il teatro aereo futurista*
1) 神原泰訳「未来派空中劇」
(神原 1924: 70-75/モダン 2007: 277-283)
42. ルッソロ, マリオ・シローニ, アキッレ・フーニ, レオナルド・ドウドレヴィツレ「絵画におけるあらゆる回帰に抗して」(1920年1月11日日付)
Russolo, Mario Sironi, Achille Funi, Leonardo Dudreville, *Contro tutti i ritorni in pittura*
1) 神原泰訳「絵画に於ける凡ての復帰に対して」
(神原 1925: 281-289/海外・刊本 2003-vol.8: 473-481)
43. ヴィルジリオ・マルキ「ダイナミックで, 精神状態の, 劇的な未来派建築宣言」(『ローマ・フトゥリスタ』1920年2月29日号)²⁷⁾
Virgilio Marchi, *Manifesto dell'architettura futurista dinamica, stato d'animo, drammatica*
1) 鶴沢隆訳「ダイナミック・精神状態・ドラマチックな未来派建築宣言」
(セゾン 1992: 86-88)
44. マリネッティ「女性的華美へ抗する: 未来派宣言」(1920年3月11日日付)
Marinetti, *Contro il lusso femminile: Manifesto futurista*
1) 細川周平訳「女の贅沢に反対する未来派宣言」
(ユリイカ 1985: 224-226)
45. マリネッティ「触覚主義」(1921年1月11日日付)
Marinetti, *Il tattilismo. Manifesto futurista / Der Taktilismus*
1) 村山知義訳「触覚主義」²⁸⁾

(村山 1922: 134-137／海外・新聞雑誌 2005: vol. 4, 227-230)

46. マリネッティ, フランチェスコ・カンジュッロ「驚愕の演劇 (総合演劇, 肉体狂気, 舞台の自由語, ダイナミックで大意的な朗唱, 演劇—新聞, 演劇—絵画ギャラリー, 楽器の即興的論議, その他)」(1921年10月11日付)

Marinetti, Francesco Cangiullo, *Il teatro della sorpresa (Teatro sintetico – Fisticofollia – Parole in libertà scenggiante – Declamazione dinamica e sinottica – Teatro-giornale – Teatro-galleria di quadri – Discussioni improvvisate di strumenti musicali, ecc.) / Das Theatre der Überraschung*

1) 村山知義訳「驚異の劇場」²⁹⁾

(村山 1922: 124-134／海外・新聞雑誌 2005: vol. 4, 217-227)

2) 太田岳人訳「驚愕の演劇 [……]」

(早稲田 2014)

47. プランポリーニ, イーヴォ・パンナッジ, ヴィニーチョ・バラディーニ「未来派機械芸術宣言」(1922年10月日付)

Prampolini, Ivo Pannaggi, Vinicio Paladini, *L'arte meccanica. Manifesto futurista*

1) 神原泰訳「機械の芸術」³⁰⁾

(神原 1925: 281-289／海外・刊本 2003-vol.8: 473-481)

2) 浦上雅司訳「未来派機械芸術宣言」

(セゾン 1992: 150-154)

48. エンリコ・プランポリーニ「未来派の舞台環境」(『ノイ』第2期6-9号, 1924年3月頃)

Prampolini, *L'atmosfera scenica futurista*

1) 太田岳人訳「未来派の舞台環境」

(早稲田 2014)

49. マリネッティ「総合演劇と驚愕の演劇の後, 我々は純粹要素による抽象的反心理主義的演劇と, 触覚演劇を考案するだろう」(『ノイ』第2期6-9号, 1924年3月頃)

Marinetti, *Dopo il Teatro Sintetico e il Teatro a Sorpresa, noi inventiamo il Teatro anti-psicologico astratto di puri elementi e il Teatro tattile*

1) 太田岳人訳「総合演劇と驚愕の演劇の後 [……]」

(早稲田 2014)

50. バッラ, ベネデッタ, デペロ, ジェラルド・ドットーリ, フィッリア, マリネッティ, プランポリーニ, ミーノ・ソメンツィ, タート「未来派航空絵画宣言」(1931年10月発表)

Balla, Benedetta, Depero, Gerardo Dottori, Filia, Marinetti, Prampolini, Mino Somenzi, Tato, *Manifesto dell'aeropittura futurista*

1) 諸川春樹訳「未来派航空絵画宣言」

(セゾン 1992: 168-173)

2) 太田岳人訳「未来派航空絵画宣言」

(立命館 2021: 136-139)

51. プランポリーニ「印象主義ダンスから未来派ダンスへ」(『オッジ・エ・ドマーニ Oggi e domani』1931年11月23日号)³¹⁾

Prampolini, *Dalla danza impressionista alla danza futurista*

1) 太田岳人訳「印象主義ダンスから未来派ダンスへ」

(早稲田 2014)

52. エルネスト・タイヤート, ルッジェーロ・ミカエリス「男性衣装変形宣言」(1932年9月20日日付)

Ernesto Thayaht, Ruggero Michahelles, *Manifesto per la trasformazione dell'abbigliamento maschile*

1) 神部晴子訳「男性衣装変革宣言」

(神部 2001: 61-64)

53. マリネッティ, フィッリア『未来派料理』(1932年)

Marinetti, Fillia, *La cucina futurista / La Cuisine futuriste*

1) 細川周平訳「未来派味テーション料理」³²⁾

(ユリイカ 1985: 238-246)

54. マリネッティ, フランチェスコ・モナルキ, プランポリーニ, ソメンツイ「イタリア帽子未来派宣言」(『フトゥリズモ Futurismo』1933年3月5日号)

Marinetti, Francesco Monarchi, Prampolini, Somenzi, *Manifesto futurista del cappello italiano*

1) 神部晴子訳「イタリア帽子未来派宣言」

(神部 2001: 67-69)

55. イニャツィオ・スクルト, レナート・ディ=ボッソ「イタリア・ネクタイ未来派宣言」(1933年3月日付)

Ignazio Scurto, Renato Di Bosso, *Manifesto futurista sulla clavatta italiana*

1) 神部晴子訳「イタリア・ネクタイ未来派宣言」

(神部 2001: 69-71)

56. マリネッティ, アンジョロ・マッツォーニ, ソメンツイ「未来派航空建築宣言」(『サンテリア Sant'Elia』1934年2月1日号)

Marinetti, Angiolo Mazzoni, Somenzi, *Manifesto futurista dell'architettura aerea*

1) 近藤健史訳「航空建築の未来派宣言」

〔アンジョロ・マツォーニと「航空建築の未来派宣言」〕、『日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系』第44号、2004年、1093-1096内収録)

Ⅲ 解題

100年以上前からなされている未来派の諸宣言に関する紹介は、きわめて古いもの、あるいはほぼ知られていないものの翻訳も合わせると、タイトルだけで少なくとも50本以上にのぼる。このリストから、各々の読者に発見がもたらされることを願いつつ、論者の観点から考えられる4つのポイントについて、最後に指摘しておきたい。

1 最初期の受容：「未来派創立宣言」と二つの「未来派画家宣言」を中心に

マリネッティの最初の「未来派創立宣言」が、新聞『フィガロ』および文芸誌『ポエジア』などに発表されたのは1909年2月のことである。その内容から有名な11か条の箇条書き部分を抜き出し日本に初紹介したのは、森鷗外の『スバル』であることはよく知られているが、1970年代の段階で千葉宣一は、鷗外を皮切りとする「未来派創立宣言」からの翻訳が、太平洋戦争以前に少なくとも5種類制作されていることを発見していた【宣言1-1, 1-2, 1-3~1-6】。

「未来派創立宣言」の翻訳の数を、日本における「未来派への問題関心が、いかに激烈であり、かつ積極的に導入されていたかを物語る例証である」³³⁾とする千葉の指摘は正しい。こうした未来派の宣言が素早く紹介された理由としては、文章が複雑難解になりがちな長文ではなく、手っ取り早い紹介がしやすい箇条書きという形式によるところが大きいだろう。そこには、日本で翻訳に使われた底本として、箇条書きの部分がより目立つものが用いられていたという事情も影響したと考えられる。

第二次世界大戦後に欧米圏で出版された資料集に収められている「未来派創立宣言」は、基本的に1909年の『フィガロ』ないしは『ポエジア』に掲載された宣言のヴァージョン³⁴⁾を底本としている。これらの「原典に基づいた」ヴァージョンにおいては、例の11か条の箇条書きの部分をはさんで、前文にあたる（「創立 Fondazione」と題字がつく時もある）部分と、箇条書きの部分の後に続き「我々は星への挑戦状を叩きつける」と終わる後文がついている。しかし、1910年代の日本において未来派情報の主要な種本となっていたのは、1912年初頭からヨーロッパ各地を巡回していた、未来派美術展の国際ツアーの小さな展覧会カタログであった。パリのベルネーム＝ジュヌ画廊（2月）、ロンドンのサックウィル画廊（3月）、ベルリンのシュトゥルム画廊（4-5月）などにおけるグループ展に合わせて、各国版で制作されたカタログのうち、日本で主に参照されたのはサックウィル画廊展用の英語版が主である。これらの同時代のカタログに掲載された「未来派創立宣言」は、いずれも前文の部分を飛ばして、いきなり11か条のスローガンから始まっている³⁵⁾。前文は後文と合わせて、マリネッティにおける象徴主義の残響とそこからの飛躍という要素を見る上で本来重要なものであるが、これらを含めた宣言全体のヴァージョンの翻訳は、1920年代に入ってからの中山麿一や神原泰の仕事【宣言1-5, 1-6】を待たねばならない。

当時の日本で読まれたテキストと、近年の資料集に収録されているヴァージョンの間に起こ

るズレを考える上では、二つの「未来派画家宣言」の差異にも注意したい。現在「未来派画家宣言」としてより有名なのは、ウンベルト・ボッチョーニをはじめとする5人の画家の署名と1910年2月11日の日付がついた、当初はイタリア語のリーフレットとして発表されたテキスト【宣言2】である。しかし実は、同じ5人の署名による別個の「未来派画家宣言」【宣言4】が存在している。後者はもともとフランス語で出されたリーフレットで、日付も1910年4月11日付となっており、冒頭では「1910年3月8日のトリノのキアレラ劇場にて発された我々の最初の宣言」に触れられている。つまり内容は【宣言2】よりも、同じ4月11日の日付が付された「未来派絵画技術宣言」【宣言3】のそれにより近い³⁶⁾。そして、日本で読まれた1912年の国際巡回展の各国版カタログに使われていたのは、この1910年4月版の「未来派画家宣言」であった。ゆえに、同時期の日本における未来派についての議論においては、【宣言2】にも【宣言3】にもない、「我々は、10年間裸体画を全面的に禁止することを要求する」という【宣言4】の末尾にのみ登場するフレーズが、芸術運動全体の性格を示すものとして、よきにせよ悪きにせよ取り上げられたのである。

2 神原泰の翻訳

高村光太郎、有島生馬、木村莊八といった文化人たちが、それぞれ初期未来派の宣言を取り上げていた1910年代と比べると、1920年代にはその勢いも収束を見せた。若き村山知義が、未だに新訳が現われていない、1920年代初頭のマリネッティの「触覚主義」【宣言45】を、ドイツ語から迂回して伝えてくるような興味深いケースも存在しているが、数としては少ない。そうした中で、ひとときわ高い水準の未来派の紹介と研究を一手に担っていたのが神原泰である。

本論考のリストでは、『芸術の理解』に掲載された2本、『未来派研究』に掲載された7本の未来派宣言だけを取り上げているが、これらの文献には多くの未来派の詩文、および「総合Sintesi」形式の演劇なども盛り込まれている。こうした神原の1920年代半ばの著作は、アテネ・フランセや東京外国語学校でそれぞれフランス語とイタリア語を学び、自らイタリアとコンタクトを取ることによって得られた、原資料の十分な読み込みと駆使の上になり立っていた。1910年代における未来派の紹介者たちにも、マリネッティの側からはふんだんな史資料が——しばしば頼みもしない分まで——送られていたものの、日本の方でのそれらの受容は、基本的に自分たちの興味にあった文章のみを断片的に紹介し、その断片的なものに基づいて何かしらの論評を加えるという域に留まっている。対して神原の『未来派研究』には、西野嘉章の列挙に従えば、テキストの全体ないしは一部が紹介されている原典は、30本以上もの宣言をはじめ、1920年代までに表された多くの講演録、小説・詩集、展覧会カタログ、研究書の多岐に渡る³⁷⁾。彼は、日本で未来派の全体像を把握しようとした初めての人物とってよい。

神原の紹介で特筆すべきなのは、未来派の個々の宣言のエッセンスである（として、現在でも安易に扱われがちな）箇条書きのキャッチーな抜粋ではなく、それぞれを原史料として訳出することに努めている姿勢である。彼は『未来派研究』の「序」でこう書いている。「芸術研究には二つの途がある。／一は内容を直接に批判する事による価値の研究で、二は歴史的考察に基づく事実の確定である。／この本は、第二の目的の為に今後不定期に描かれる未来派研究の第一巻をなすものである。／事実は論議に先立ち、鑑賞は理解に続いて来ると信ずるからで

ある」³⁸⁾。神原独自の史眼とでもいうべきものの存在は、『未来派研究』に収録した宣言の選択にも表れている。同書に収録した「未来派画家宣言」として、神原は4月11日付の【宣言4】を選んでいるが、それはこれまでの日本で読まれていたからといった、漫然とした理由からではない。彼は2月11日付の「未来派画家宣言」の存在も把握した上で、(1)4月付の「未来派画家宣言」が、2月付の「未来派絵画宣言」と「未来派絵画技術宣言」の内容を合わせたものと考えられること、(2)後者の2本はボッチョーニの『未来派の絵画と彫刻』にも収められているものの、現在でも未来派運動の側が主に印刷しているのは、前者の方であること——という、史料選択の判断基準を明快に挙げることができた³⁹⁾。

神原の歴史家的な探求心は、詩人パオロ・ブツィの記述にマリネッティのミドルネームの綴り違いを発見した際、マリネッティ本人に問い合わせた上で、なお「何時かパオロ・ブッチ〔ママ〕に会う機会があったら、何故エンメを一つ少なく綴ったかを聞いて見たいと思って居る」⁴⁰⁾と記すような、些細な部分にも及んでいる。1930年代初頭の神原が「左傾」し、未来派の将来のみならず新興芸術運動全体までに否定的になったことについて、西野は当時の唯物論的芸術論に「洗脳されたためであろう」⁴¹⁾としているが、これはいささか皮相な見解ではないだろうか。論者は、神原の未来派への史料批判を含んだ早熟な読解の方法の中に、元からそうした芸術論に対する親和性があった点を強調したい。

3 第二次世界大戦後の受容

未来派が同時代の芸術運動から歴史上のものとなった第二次世界大戦以後、その宣言が日本で再び検討の対象になるのは1960年代からである。1961年に佐々木宏は、『建築』誌の連載記事でアントニオ・サンテリアを取り上げ、英語圏における当時の新著であったレイナー・バンハムの『第一機械時代の理論とデザイン』⁴²⁾の評価を参照しつつ、戦前の段階では全訳のなかった「未来派建築宣言」と合わせて、そのプロトタイプである「メッセージ」の両方を翻訳した【宣言23,25】。

『みずゑ』1969年9月号では未来派特集が生まれ、そこでは大石敏雄による3本の翻訳が掲載されたが、注目すべきはジャコモ・バッラとフォルトゥナート・デペロの共同名義による「宇宙の未来派的再構成」【宣言27】の紹介である。戦前の段階でバッラは、一種の「ボッチョーニ中心主義」的な未来派観から「この派の作家中それ程優れた才能の所有者とも思われない」⁴³⁾と見なされることもあったが、大石の翻訳と同時に掲載された井関正昭の論考⁴⁴⁾は、純粹抽象絵画や環境芸術の文脈においてその再評価を促した、新しい西欧の研究動向をふまえたものである。なお『みずゑ』の特集と同時期に、戦前期においては神原泰に批判を投げかけたこともあった北園克衛が、自己の主催する同人誌『VOU』で未来派宣言の翻訳を試みていることは、往年のアヴァンギャルドの残照として興味深い。1972年には、未来派の作品を含むミラノのマッテイオーリ・コレクションの展覧会カタログに、最初期の4本の未来派宣言が掲載されている。

しかし、日本において本格的な未来派のリバイバルが起こるのは1980年代から1990年にかけてである。欧米圏全体での再評価を決定づけたとされる、1986年にヴェネツィアのパラッツォ・グラッシで開催された「未来派／未来派たち」展の前後には、日本でも呼応して未来派に関する雑誌や図書の出版が行われ、宣言については雑誌『ユリイカ』が12本を訳出した。細川周平

ら訳者陣のテキスト選定には、当時の「ポストモダン」的観点からする、「戦争」に関するマリネッティのヴィジョンへの強い興味が反映されると同時に【宣言 31, 32】、アントン・ジュリオ・ブラガーリアの『フォトダイナミズム』【宣言 20】のような、それまでなお日本で紹介されていなかった未来派の分野も取り上げられている⁴⁵⁾。そして、1992年にセゾン美術館ほかで開催された「未来派 1909-1944」展のカタログは、当時の若手から中堅のイタリア研究者によって訳出された、「未来派創立宣言」から1930年代初頭の「未来派航空絵画宣言」【宣言 50】に至る、各時代の最も基本的かつ重要な宣言15本を順に網羅し、今なお日本における最大の未来派宣言の翻訳集としての地位を保っている。また、一般誌や展覧会の動向ほどには目立たないものの、大学紀要という場において未来派の宣言を紹介した、宮田克人や後藤新治⁴⁶⁾らの仕事も見逃されない。

4 21世紀の未来派テキストの翻訳と今後の課題

日本では、2000年の東京都庭園美術館における「デペロの未来派芸術展」を最後に、未来派を単体で大きく取り上げた展覧会は開催されていないものの、何かしらの形で未来派を取り上げる学術研究論文そのものは、着実に生まれ続けている。2021年の『立命館言語文化研究』の特集において、各ジャンルのイタリア近現代文化を専門とする5人の研究者が、5つの未来派宣言の新訳とそれらに関する研究論文を掲載したことは、その最新の現れの一つである（立命館2021: 1-139）。

今後の未来派研究の広がりや深まりを考える上での問題の一つは、狭義のイタリア研究の外部からの未来派への注目である。この点については、2000年代初頭になされた、服飾を専門とする神部晴子の論考と未来派宣言の紹介が示唆的である。神部は明らかにイタリア語に不慣れであり、イタリア文化ないしは未来派研究の視点からすれば、そこに由来する問題点を指摘するのはたやすい⁴⁷⁾。しかし彼女は「専門外」であるからこそ、「専門家」が軽視し放置していた1930年代の相当にマイナーな未来派芸術家によるテキスト【宣言 52, 54, 55】にも目を向け、現在なお唯一となる翻訳を提供するに至っていることは、重く見られるべきである。

もう一つの問題は、インターネットを通じた原典や情報の公開の進展である。論者はすでに、20世紀の演劇に関する基本的な文献の日本語版をインターネット上に公開するという、早稲田大学の演劇映像学連携研究拠点のプロジェクト「演劇研究基盤整備：舞台芸術文献の翻訳と公開」に参加し、マリネッティやエンリコ・プランボリーニらの演劇に関わる宣言の拙訳を公開している⁴⁸⁾。さらに近年では、イタリアを始めとする西欧の図書館、アーカイブ、研究機関などが、所蔵する史資料を続々とオープンソース化する動きを進めている。2021年に公刊された多木浩二の遺稿集に、9本の未来派の宣言の新訳を付した多木陽介は、その底本にアカデミア・デッラ・クルスカの公式サイトに掲載された宣言を使ったことを明記しているし⁴⁹⁾、先述の『立命館言語文化研究』にも、インターネットを通じた宣言へのアクセスをよく活用する執筆者は複数人いる⁵⁰⁾。

未来派の様々な側面に関する潜在的な関心が存在し、一方で原典のデジタルデータに容易にアクセス可能な環境が整いつつある。そうした状況に対し、今後日本語による未来派の資料集・宣言集が新たにつくられるとすれば、単に掲載される宣言の数を充実させるのみならず、新た

に未来派に触れる人にとって助けになる、既存の翻訳や現在のウェブサイトの情報についての整理や解説なども含む、羅針盤的な機能を広く果たせるものとして構想されるべきであろう。

注

- 1) 箇条書きの11か条のみの紹介。
- 2) 箇条書きの11か条以降の紹介。木村は後に『未来派及立体派の芸術』（1915年、天弦堂／海外・刊本2003 vol.1:225-454）の中で、より宣言を小分けにしながら読解を行っている。
- 3) 箇条書きの11か条以降の紹介。
- 4) 箇条書きの11か条以降の紹介。
- 5) 箇条書きの11か条以降の紹介、サックヴィル画廊展のヴァージョンからと明記。
- 6) 箇条書きの11か条以降の紹介。
- 7) 雑訳『シュトゥルム』1912年3月号ドイツ語訳からの重訳。
- 8) 箇条書きの11か条のみの抜粋。
- 9) 【宣言2-1】の箇条書き部分の再録。
- 10) 当初この宣言は、ビラの形でイタリア語・フランス語の各国語でつくられ、「未来派的ヴェネツィア」という題名であった。しかし、間もなく増補版が発表された際に Venezia contro passatista と題名も変えられ、主に現在も主にこの通称で知られている。神原の翻訳は、テキスト自体は最初の版を採用し、タイトルは後の呼称を採用したようである。なお、神原の翻訳では、テキストの署名者に「五人の未来派画家」と合わせて「十四人の未来派詩人」を上げているが、「十四名」が挙げられている宣言の版については未確認である。
- 11) 一部分の抜粋。
- 12) サックヴィル画廊のカatalogに掲載されたテキストの要約。
- 13) 1912年2月初出のテキストの冒頭を増補した版。訳者はCaruso（1980）で複製された1914年の『未来派宣言集 I manifesti del futurismo』版を底本としているが、テキスト自体の初出は、1913年1月のローマのコスタンティ劇場における巡回展カatalogによる。
- 14) 「結論」の箇条書きの10-11項目がない。
- 15) 雑誌『シュトゥルム』1912年10月号のドイツ語訳からの重訳。
- 16) 加筆修正された文章が、『未来派の彫刻と絵画（造形的ダイナミズム）』第8章に収録。
- 17) 「シンタクスの破壊 DISTRUZIONE DELLA SINTASSI」という題字のフレーズは、1914年の『未来派宣言集 I manifesti del futurismo』に掲載された版で登場する。
- 18) 一部分の抜粋。
- 19) 前半の約3分の1の訳出。
- 20) 61の断章のうち、4分の1を訳出。
- 21) 第6章「なぜ我々は印象派ではないか」の翻訳。
- 22) 後に修正を加えたイタリア語版とフランス語版が存在しており、訳者は後者も参考にしたとしている（Contre l'art anglaise, manifeste futuriste 「イギリス芸術に抗して：未来派宣言」）。
- 23) 宣言の箇条書き部分の抜粋が中心。
- 24) 一部分の抜粋。
- 25) 「飛行士のダンス Danza dell'aviatore」の部分のみの抄訳。
- 26) プランポリーニが1914年に発表した「〈大気構造〉未来派建築のための基本原理 L'atomosferastruttura basi per un'architettura futurista」と合わせて構成。
- 27) 『ディナモ Dinamo』第5号（1919年6月）にも、「未来派建築 Architettura futurista」の題名で掲載。
- 28) ドイツ語版からの重訳。

- 29) ドイツ語版からの重訳。
- 30) 訳者は『ノイ』の1923年5月号を底本にしていると明記しているが、日付は「1923年1月11日」となっている。
- 31) 『± 2000』1932年6月15日号にも、「身振りと運動の芸術 L'arte del gesto e del movimento」の題名で掲載。
- 32) フランス語翻訳版からの抜粋。
- 33) 千葉（1978: 103）。
- 34) 多木陽介は、彼が翻訳に使った『フィガロ』掲載版の同宣言が、『ポエジーア』のイタリア語版と比較すると少なからぬ差異を持つことを指摘し（多木 2021: 242）、違いのある部分について丁寧に注釈している。ただし、『フィガロ』版にはなく、『ポエジーア』版には登場すると指摘されるフレーズ（たとえば「スーダン人の乳母の黒い聖なる乳房」に言及するくだり）の中でも、別のフランス語のビラヤパンフレットに掲載された「未来派創立宣言」のヴァージョンにおいては、普通に反映されているものがあることには注意が必要である。
- 35) NA-CdE（2010: 23-38）
- 36) 多木陽介は「未来派画家宣言」が「二つある」と正しく認識しているが、自分の翻訳の底本としている2月11日付のヴァージョンをなぜか「二つ目」としている。多木（2021: 251）。
- 37) 西野（2019 vol.1: 263-265）。
- 38) 神原（1925: 129）＝海外・刊本（2003 vol.8: 341）。
- 39) 神原（1925: 257）＝海外・刊本（2003 vol.8: 449）。
- 40) 神原（1925: 329-330）＝海外・刊本（2003 vol.8: 541-542）。
- 41) 西野（2019 vol.1: 490）。
- 42) レイナー・バンナム『第一機械時代の理論とデザイン』（石原健二・増成隆士訳、鹿島出版会、1976年）。
※原著初版は1960年。
- 43) 黒田重太郎「現代の伊太利絵画」、『美術百科全書 西洋編』（新潮社、1934年）、551。
- 44) 井関正昭「造形的複合体：バッラとデペロの場合」、『みづゑ』第778号、1969年11月、15-22。後に井関は「未来派 1909-1944 展」および「デペロの未来派芸術展」の日本側組織者として活躍した。さらに両展覧会後の著作『未来派 イタリア・ロシア・日本』は、1992年の展覧会カタログに掲載された宣言より、6本を付録として収録している。井関（2003: 539-584）。
- 45) 神原泰はマリネッティと合わせてボッチョーニへの賛辞も惜しまなかったが、ブラガリアは後者の批判対象であったせいか、その実験写真は『未来派研究』でも取り上げられず、巻末索引にも名前すら登場していない。
- 46) 宮田の本来の研究対象はルネサンス美術であろうが、そうした彼が数年にわたって未来派宣言の翻訳に取り組んだのは、彼が主に翻訳の底本としたルチアーノ・カルーソの函入り原寸複製版のような、当時の新しく公刊された宣言・資料集の存在が大きな刺激になったと思われる。Caruso（1980）。また、今回のリストでは割愛したが、後藤の仕事では「宣言」の枠から外れるようなボッチョーニのテキストの訳出もしばしばなされている。後藤新治「ボッチョーニとドロナーの「同時性」論争に関する4つのテキスト」、『西南学院大学国際文化論集』（第12巻1号、1997年、35-71）など参照。
- 47) 神部は「全面的なご協力をいただいた翻訳者」として別の個人の名前を挙げているものの、なお論文には「変革 trasformazione」や「帽子 cappello」の綴り違いや「イニャツィオ Ignazio」の読み違いなどが散見される。
- 48) 早稲田（2014）
- 49) 多木（2021: 349）。なお、このクルスカ版は、1980年の原寸複製版（Caruso 1980）のデータをデジタルオープンリソースとしたものである。
- 50) 『立命館言語文化研究紀要』における未来派の特集では、特に横田さやかが自身の論考の参考文献に、

一定の信頼が置ける資料サイトの一覧を含めている。横田さやか「〈未来派ダンス宣言〉を読む——マリネッティのメディア戦略と舞踏論」, 立命館 (2021: 75-76)。

【複数の未来派宣言の翻訳を含む媒体】

鶴沢 (2007)

鶴沢隆 (註解) 『アントニオ・サンテリア「新都市」』 (註解編), 中央公論美術出版

大石 (1969)

大石敏雄「未来派宣言抄」, 『みづゑ』第778号, 1969年11月, 23-29

海外・刊本 (2003)

日高昭二・五十殿利治 (監修) 『海外新興芸術論叢書 刊本篇』全12巻, ゆまに書房

海外・新聞雑誌 (2005)

日高昭二・五十殿利治 (監修) 『海外新興芸術論叢書 新聞・雑誌篇』全10巻, ゆまに書房

神原 (1924)

神原泰『芸術の理解』, イデア書院

(※復刻版: [モダン 2007: 191-430])

神原 (1925)

神原泰『未来派研究』, イデア書院

(※復刻版: [海外・刊本 2003 vol.8: 171-581])

神部 (2000)

神部晴子「20世紀メンズファッションの革新——未来派画家ジャコモ・バッラとメンズスーツ——」, 『文化女子大学紀要 服装学・造形学研究』第31集, 51-64

神部 (2001)

神部晴子「20世紀メンズファッションの革新Ⅱ——イタリア未来派の画家たち——」, 『文化女子大学紀要 服装学・造形学研究』第32集, 59-74

木村 (1914)

木村荘八「未来派」, フランク・ラター『芸術の革命』所収, 洛陽堂, 551-592

(※復刻版 = [海外・刊本 2003 vol.1: 75-118])

現代之美術 (1921)

「マリネッティ 伊太利未来派画家宣言書」, 『現代之美術』第4巻6号, 1921年9月

(※復刻版 = [海外・新聞雑誌 2005 vol.2: 299-314])

後藤 (1995)

後藤新治「ボッチョーニの未来派彫刻理論とその作品: 1912-1914」, 『西南大学国際文化論集』第9巻2号, 95-142

佐々木 (1961)

佐々木宏「サンテリア その予言者的意義の理解のために」, 『建築』第7号, 1961年3月, 11-24

西洋演劇 (2019)

山下純照・西洋比較演劇研究会 (編) 『西洋演劇論アンソロジー』, 月曜社

セゾン (1992)

セゾン美術館 (他編) 『未来派 1909-1944』, 展覧会カタログ, 東京新聞他

多木 (2021)

多木浩二『未来派 百年後を羨望した芸術家たち』, コトニ社

表現主義 (1972)

『表現主義の理論と運動: ドイツ表現主義 第5巻』, 河出書房新社

マッティオーリ (1972)

『近代イタリア美術の巨匠たち ジャンニ・マッティオーリ・コレクションより』, 展覧会カタログ, 京都国立美術館他

宮田 (1984)

宮田克人「未来派研究Ⅰ」, 『高知大学教育学部研究報告第2部』第36号, 85-114

宮田 (1986)

宮田克人「未来派研究Ⅱ」, 『高知大学教育学部研究報告第2部』第38号, 41-69

宮田 (1987)

宮田克人「未来派研究Ⅲ」, 『高知大学教育学部研究報告第2部』第39号, 63-79

村山 (1922)

村山知義「触覚主義と驚異の劇場」, 『中央美術』1922年5月号, 124-137

(※復刻版 = [海外・新聞雑誌 2005 vol.4: 217-230])

モダン (2007)

石田仁志 (編) 『コレクション・モダン都市文化 27 未来主義と立体主義』, ゆまに書房

ユリイカ (1985)

『ユリイカ』(特集: 未来派 モダニズムの総決算) 1985年12月号, 青土社

立命館 (2021)

『立命館言語文化研究』第33巻第2号 (特集: 現代イタリアの知の拡散と集積 [その四])

早稲田 (2014)

早稲田大学演劇映像学連携研究拠点・テーマ研究公式サイト「演劇研究基盤整備: 舞台芸術文献の翻訳と公開」より「イタリア編」(2014年3月公開)

(https://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/trans/modules/xoonips/listitem_index_id_93.html) ※2022年10月16日閲覧確認

Crusca

アッカデミア・デッラ・クルスカ (編), 未来派宣言書の集成

(<https://futurismo.accademiadellacrusca.org/>) ※2022年10月16日閲覧確認

【その他の参考書】

井関正昭 (2003) 『未来派 イタリア・ロシア・日本』

千葉宣一 (1978) 『現代文学の比較文学的研究——モダニズムの史的動態』, 八木書店

西野喜章 (2019) 『前衛誌——未来派・ダダ・構成主義 [日本編]』全2巻, 東京大学出版会

【宣言, 展覧会カタログ等の原典資料集】

Caruso (1980)

Luciano Caruso (a cura di), *Manifesti, proclami, interventi, e documenti teorici del futurismo, 1909-1944*, 4 volumi, Firenze: SPES.

De Maria (1983)

Luciano De Maria (a cura di), *Filippo Tommaso Marinetti: Teoria e invenzione futurista*, 2nd, Milano: Mondadori (1st, 1968).

NA-CdE (2010)

Enrico Crispolti (a cura di), *Nuovi archivi del futurismo. cataloghi di esposizioni*, Roma: De Luca.

NA-MP (2019)

Matteo D'Ambrosio, (a cura di), *Nuovi archivi del futurismo. manifesti programmatici: teorici, tecnici, polemici*, Roma: De Luca.

